

★ 第二回 院内集会

日時： 5月25日(水) 13時00分～14時00分

場所： 参議院議員会館 B104 会議室(前半)

山田 今ここに来てくれている方々のほとんどが退役された現場の職人さんです。例えば「原発の建屋はおれが作った」「クレーンを運転して機械を据えたんだ」、あるいは「配管溶接をした」という方もおられます。そういう方々がお話されると、思いがいっぱいあるわけです。その思いを一生懸命聞いて、胸いっぱいしていると、またこれも時間がかかっちゃう。そういう日々でございます。一部の頭でっかちの人間がやっているのではなく、本当に仕事をちゃんとやっている方々が、これこそ俺の出番だと言って動こうとして下さっている。我々の活動はそういうところへ来ていると思いますし、いよいよ政府の中核にある方々も本気で考えてくれているのではないかという感触を得ております。ここでみなさま、ひとりひとりが今思っていることをどのように具体的にしたらいいのか、ということについて今日は基本を深めてくれたら大変ありがたいと思います。新しい組織をいずれ作らなければならないとは思いますが、この組織がどんなものかということについても、我々は確たるイメージを持っているわけではまだありません。少なくとも東京電力の下請けとか、政府の一機関とか、そういうものではないということぐらいは考えておりますが、こういう点についても結論を出すつもりはまだありません。みなさまがそれぞれ思っていることを伺えればありがたいと思います。

牧山議員 今日の主役はみなさんなので、みなさんの生の声をしっかり聞きたいと思えます。

伊藤 メールを頂いたので来ました。賛成するのが当たり前だから来たので、それだけです。

富田 練馬に住んでいます。山田さんとある会合で一緒になって、こういう提案があった。これはぜひ進めようじゃないか。ただ私は来年80歳になりますんで、現場に入ったらかえって迷惑がかかるかなと。できれば後方から支えるような仕事をやりたい、やらなきゃいけないと思って参加しました。

タマイ 職業は役者と歌を歌っています。どちらかという、伝える方の立場の人間だと思って、今日は参加させて頂いています。

?? 僕は神奈川県のア野市から来ました。しばらく前に友達を経由して山田さんのメールを頂きました。私はブログとかツイッターをやっていますので、それに山田さんの伝え

を書いて考えを紹介したり、また僕の気持ちも伝えたりということで来ました。僕は技術者じゃないんで、現場で活動はできないと思いますけれども後方で応援すると、サッカーで言えばサポーターというのが自分の役どころかなと思って。インターネットをいろいろとやっているもんですから、そういうのを通じて友達に呼びかけているところです。

岩田 山田さんとは大学時代に一緒だったんですけど、40年ぶりにお会いしてこの話を聞きまして。私は技術者ではないので、行動隊に参加しますというふうにはなれないんですね、能力が全然ありませんから。しかし福島原発暴発阻止行動隊に賛同し応援しますというところにはさっそく手紙を書いて支持したというわけです。私の専門はポーランドとかユーゴスラビアとかいう地域の研究でありましたから、彼の書いた英文とドイツ文のものをみなさんに送ってあります。

藤田 茨城県水戸市から来ました。私は以前、まだ議員会館が古い頃、参議院議員の秘書をしておりまして、ずっと自民党の秘書だったので原発推進ということで、ましてや茨城は東海村を抱えております。文化放送だったと思うんですけどこのプロジェクトの話を聞いて、その時に胸が震えました。すごい方がいるんだなど。私も技術があるわけでもないのですが、間もなく60歳になるので行動隊に入れるかなということで参加を決意し、すぐ登録をさせて頂きました。また今自分に何ができるのかなと思って、今は判子屋なもんですから、毎週石巻に行って通帳その他を流された人に無料で判子彫りをしております。すでに400人ほど作りました。日本人として何ができるのかということを考えればもうお分かりなもんで、私も一生懸命がんばりたいと思います。

藤本 私は74歳ですが、行動隊の方に参加させて頂いております。今日は九州の宮崎から出てきました。退職者じゃなくてまだ現役です。沖ノ島というと長崎県の壱岐とよく間違えられますが、沖ノ島で今バイオマスの新エネルギー創成のプロジェクトを林野庁から委託を受けてがんばっております。山田さんのメールを読んで、私は口先だけで東電のやり方が悪いってことをずっと言い続けたり思ったりしていましたが、非常に今までの自分の生き方を恥じました。山田さんが自ら立ち上がって行動しよう、がんばろうということに賛同して出て参りました。現場に入ったらちゃんと指示系統があると思うので、それに従うつもりですが、ひとつだけ提案させて頂きたい。私も長い間現場で育った技術屋だったので、いろんな緊急事態に陥ったこともございますが、原発が暴発する数時間、5時間なのか6時間かは分かりませんが、その間にやるべきことが必ずあったんだと思います。それを現場でお手伝いしながらどこかで5時間くらい時間を頂いて、本当に阻止できたのではないかと、仮配管をして水を流して冷却をして、ベントしなかったというのは素人が考えても最大のミスですから本当にそれは残念ですけど、そういうことを実証させて頂きたいという思いも込めて、今回参加させて頂きました。ぜひがんばりたいとは思いますが

が、沖ノ島の責任者として向こうにおるもんですから1ヶ月とか2ヶ月間長時間というわけにはいきませんが、1週間か2週間おきに必ず参加させて頂きたいと思い、本日は出て参りました。

牧山議員 国会議員の方もこちらにお見えなので、コメントがあればよろしくお願い致します。

大島議員 参議院議員の大島九州男でございます。一昨日ですか月曜日、ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、原発がいかに危なかったかということについて、国会の正式の場でやらせて頂くことができました。今日も東電の方と原子力保安院の方をお呼びして意見を言わせて頂きましたけれども、津波があったから今回ああいう事故が起こったというような言い方をしていますが、実は地震が起きた時にあの原子炉の配管が壊れたりして、既に11日の夜の時点にはメルトダウンが起こることは想定して動いていくというスキームだったんです。ところがそれを外に発信する時は、一部損傷でなんとか大丈夫だというような発信の仕方をしていたことに対して、我々は非常に残念に思っております。そのような事態を受けて、みなさんがこのような形で自分達に何ができるかということでお集まりを頂いているその思いを、私どもはしっかりと受け止めて、牧山先生を中心に、なんとかみなさま方の思いがどういう形であれこの原発の阻止に関与できるように、どうやったらできるかということ、我々の立場として考えさせて頂き、原発事故の収束に繋がるように努力をさせて頂くことをお伝えを申し上げまして、ご挨拶とさせて頂きます。

小林議員 衆議院議員の小林正枝でございます。この、決死隊と言っていいんでしょうか、この存在を1ヵ月ぐらい前にある勉強会で知りまして、一体どういった方達がそのような崇高な志と理念を持っていらっしゃるのか、ぜひみなさんの声を聞いてみたいという思いで今日こちらに参りました。みなさんの思いは、これからの日本を背負って行く者達にとってはかけがえのない存在になると思います。私達国会議員が一丸となってその支えとなるようにがんばって参ります。

牧山議員 それではマイクを引き続き次の方にお返し頂ければと思います。

中村 横浜に住んでおります。59歳、まだ現役の文系のサラリーマンで、技術もなにもありませんので、行動隊の方ではお手伝いできないんですが賛同者の方へ登録させて頂いております。たまたま私はフランス語を使うものですから、できるだけ海外の方にもこの活動を伝えたいと思っておりまして、ひよんなきっかけからミッテラン大統領の顧問をされていたジャック・アタリさんとメル友になってしまいましたので、今ちょっとメールのやりとりをしているわけです。この山田さんの暴発阻止プロジェクトについてもフランス

語で報告をしています。それで彼も非常に興味を持って読んでくれています。そういう形でツイッターないしはフランス人とのメールのやりとり等で、この活動を広めるお役に立てればいいなと思っております。

ムカイダ 西東京から来ました。テレビで山田さんの報道を見て翌日に申し込みました。今日は山田さんの素顔、どんな人なのかなということ、あと本当に行けるんだろうかと、東京電力も政府も我々が厄介者なんじゃないかと思っているような気もしないでもないの、本当に行けるのだろうかかというのを、今日はちょっと聞きたいなという思いで来ました。

佐藤 昨日の言葉と重複することになりますが、私は広島市の生まれでございます。幼い頃から周辺に原爆被爆者一世二世がおりまして、惨状を見せつけられて育った者です。私の妻の父親が刑事をしております、原爆が落ちた折に翌日から現地に入り、広島に流れている5本の大きな川が死体で埋まり、満ち潮引き潮で流れつつおると、それを竹竿で引っぱって近くで焼いたという話を聞かされて、その娘を私が妻に娶ったものですから、さて私の被曝二世の子にどのような影響があるかなと。遺伝子、DNAという医学的問題、GHQがABC研究所を設けてその後の影響を何十年かにわたってデータを採るということをやっておりましたが、果たして私の子はどうなんだと心配しながら今日に至っております。今のところ無事であるということですが、いつ免疫が落ちて、どのような状況になって白血病でぶっ倒れるか、というふうな心配があります。私は建設関係に従事していた関係上、広島の病院関係、赤十字原爆病院等々をやっておりましたので、被爆者の病院患者の様子を見ております。原爆認定証ということで世間を騒がせ、結果として認可されないという状況になりましたけど、最近になってアメリカ軍のニュースデータで原子雲は地上数kmにわたって上がったという政府の見解であったと。アメリカのその当時のデータから検知しますと、10kmも倍近く上空まで上がって、その漂った範囲がものすごい状況になるということで、原爆認定患者で訴訟を起しています。かし現実には法的に厚生省が認めていない。この福島原発においてもトラブったということで、さてトラブルをどうするかということで私はここに馳せ参じております。いずれにしても私の実体験と原爆の恐さを、みなさんどこまでご存知なのかということ、我が身に返って認識してから、ことを起して行きたいと思っております。惨状に入り込んでことを起すということは、そうやすやすと入れる状況ではないということも合わせて、真剣に考えてゆくこと。特に先生方にその辺よろしくお願ひしたいと思っております。

平井 飯野から来ました。この震災以来2ヶ月間に流した涙は私の人生70年間で流した涙よりたぶん多いと思います。そのくらい悲惨な状況を見てきたのですが、私自身3月18日にmixiの日記に「こんなことは絶対若い人にやらせるべきではない。我々世代がやる

べきだ」ということを書いたのですが、それを書いたのは晩の11時ごろですが、それで翌朝起きてみるとアクセスが500ちょっと、辿ってみたらみんな若い人ばかりなんですね。ああ若い人達はこんなにこの事を心配しているんだ、じゃあますます我々がやらなきゃいけないと思った次第です。私の叔父が茨城県の東海村に住んでいて、その長女、私にとっては従妹になるんですが、その女性がUターンをして東海村の原子力機関で働いていて、技術者と結婚して女の子が生まれたんですが残念ながら指は4本しかなかった。身近にそういう女性がいるものですから、これは絶対に若い人にやらせたくはない。それが私の決意でございます。

内藤 昨日こちらに参加し、山田さんの話を聞いて非常に感激したのは、ああいう福島原発のようなことをやるには技術としてきちっとしたもの、10年間もつものを作らなきゃいけないんだというお話でした。とにかくそれをやりたいということで、今技術者が相当数集まっていっちゃる。この間のいろんな報道等を見ましても、東電がこうだああだといろんなことを言う人がいるけれど、やっぱり誰かがやらなきゃいけない。それをやろうと声を上げているのはこのプロジェクトしかないのではないかと思って、実は昨日参加してもう今日から事務局に参加し始めました。私は今63歳で会社をやっているんですが、比較的時間がありますので、できるだけデータベースパソコンをいじって、FAXで来たものを入力したりということで、今朝も山田さんの事務所でいろいろ打ち合わせをしました。できたら今日お集まりの方で事務局作業を週一でもいいから手伝ってもいいよという方がいらしたら残って頂いて、一緒に事務所へ行ってみませんか。今事務局に非常に優しくて厳しい女性もいらっしゃいますので。

田中 中央区から参りました。還暦をだいぶ前に過ぎまして、娘、嫁、孫など若い人達の中で生きております。京都大学の小出先生がずっと言っておられますが、本当はいけない物を作って反対をしてきたけど54基になってしまった。それは私自身が大学を出て生きてきたまさにその時代だったんです。そうした中で私も同じように都会にずっと住みながら電気を享受し、そのエネルギーがどこからどうしてできているのか、なにも学ばず知らずで、こういうことになってみれば本当になんてことだと思えます。でもそれはもう無知以外の何ものでもない。無知を恥じると同時に無知が罪です。私は今なんとも言いようのない残念な思い、悲しい思いがあります。でも個々がそれぞれになにかの形で行動してゆかないかぎりなにも変わらない、ということもみなさんよくおっしゃっておられますけれど本当にそうだと思います。山田さんがお立ち上げになったこと、私はネットで拝見して本当に素晴らしいと感じましたので、後方支援という形でエントリーをさせて頂きました。私は文科系でございますので現場で動くことなんてできません。先ほど言っておられた方のように、ぜひ事務所に伺ってボランティアでお手伝いをしたいと思えます。

トモザネ 世田谷区から来ました。62歳です。現役の時は土木工事現場の施工管理、施工計画をやってきた者です。ここにご参加のみなさまがいろんな思いを語っておられますが、私は少し違うんです。今牧山さんが、私達は事故の現場に行きたくて来ているんだというふうにおっしゃったけれど、決してそうじゃないと思うんです。行かずにおれない、やむにやまれぬ思いで来ているんだというふうに理解して頂きたい。事故以来大変なことになったと思っていました。ひと月程前に、私は母親の介護を京都に行っておりまして、大阪の毎日放送でこのプロジェクトの話が放送されたんです。なにかできないかと常々思っていたもんですから、その情報に飛びついたということで、たまたま昨日メールを頂きまして、今日京都からこちらに来たわけなんです。いろんな思いがみなさんあるんですけど、私が思っているのは、ちょっと批判めいた話になりますが、政治家にしても役人にしても当事者意識がないのではないか。情報を隠していたという話もありましたし、東京電力が最初に工程表を出したすぐ後にわが国の親分が避難所に行って、1ヵ月でも2ヵ月でも前倒しをさせると根拠のないリップサービスをするというようなことがあって、本当に情けないという気持ちが一杯なんです。原発の仕事はしたことはありませんので、何ができるか分かりませんが、現場に入ったらなにかできる、なにかやらせて頂きたい、力になりたいと思っています。